
麗しき日常（笑）

ポペ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

麗しき日常（笑）

【コード】

N0238W

【作者名】

ポペ

【あらすじ】

没落貴族のお嬢様と、何故かまだお嬢様に使えている執事のなげない日常を会話だけの描くだけの手抜き小説（？）。

夕食

「さてお嬢様、今夜の夕食なのですが……」

「なに？ どうせ、かたいパンか、パン屋で買ったパンの耳か、昨日のパンの残りでしょ？ というか最近パンしか食べてないわね……」

「確かにそうですね。夕食なのですが、私が今日バイト先で買った弁当で、お嬢様が昨日のパンの残りでどうでしょうか？」

「はあ！？ なんて執事のアんたが弁当で、主の私が昨日のパンなのよ!？」

「おや、不満があたりで？」

「当たり前よ!!」

「ほお、なるほど。お嬢様は、日中ひたこら働いてる者ではなく、ただただ家でぐうたらしている者のほうが栄養を摂取する必要があると言つのですね？」

「うっ……」

「そうですねかそうですね。なら、お嬢様が弁当をお食べください。ええええ、明日もし栄養失調で私が倒れてもお嬢様のことを恨みなどはしませんからどうぞ一思いにお食べください。私は栄養などあつてない昨日のパンを頂くのでお嬢様は疲れて栄養を欲している私のままで」

「もう！ わかったわよ！！ 私が昨日のパンを食べるわよ！！
あんたが弁当でもなんでも食べなさいよお！！」

「おお！！ 流石は慈悲深きお嬢様！！ では、お嬢様の気が変わ
らぬ内にさっさ頂くとします」

「はあ、なんでこんなのが執事なのよ……」

就職？

「執事！」

「はい、なんでしょうか？」

「私、働くわ！！！」

「おお！ あの一日家でぐうたらして一時期は働いたら負けと言っていたニートお嬢様がついに働く気に！？」

「ねえ、ずっと前から気になってたんだけどなんでそんな失礼なことをさらりと言えるのよ……。まあいいわ」

「そうですね。小さいことを気にしてはいけません。ああでも、お嬢様のあるのかないのか分からないその小さく貧相なむ……」

「それ以上言ったら本気で怒るわよ……？」

「おや？ なにか気に障りましたか？」

「もういいわ！ それよりも！！ 私も働くことにするわ！ 何時までも執事に甘えるわけにもいかないしね」

「おお……。この執事、お嬢様にお使いさせて頂き早十数年。これ程までに明日の天気を気にするのは初めてです」

「ほんつと失礼ねあんた！！！」

面接からの

「お嬢様、バイトの面接はどうでしたか？」

「まあ、上々だったわよ。当たり障りのない回答をし続けたからね」

「……はあ、やはりお嬢様はくるくるぱーですね」

「なんですって!?!」

「いいですか、お嬢様？」

「何よ!?!」

「まあまあそう怒らないでください」

「はあ、何よ？」

「いいですか？ バイトとはいえ自分を売り込まなければ採用などして貰えませんよ？」

「た、確かにそうね……」

「お嬢様、宜しければ練習をしませんか？」

「そうね、お願いできるかしら？」

「おまかせください。では、最初の質問です。ご趣味はなんですか？」

「そんなこと聞くのかしら？ まあいいわ。趣味は庭で優雅に紅茶を頂くことよ」

「……お嬢様、見栄を張らないでくださいませ。趣味はBLの同人誌を読み漁ることでしょう」

「ちよっ！ なんであんたがそのことを！！」

「おや、あんなところに置かれては嫌でも目につきますよ？」

「なっ！ ちゃんとベッドの下に隠したはずよ！！」

「お嬢様、もしかして密かに集めていた同人誌も、官能小説も、自作の同人誌もばれていないとお思いで？」

「いやああっ！！ なんでそれをおお！！？」

「ついでに言わせて頂きますが、あの同人誌は些か人に見せるには恥ずかしいと思われるかと」

「見せるつもりは毛頭なかったわああ！！！」

バイト先

「執事！ バイト受かったわよ！！」

「おめでと〜ございます、お嬢様」

「はっはっは、私のことを少しは見直したかつ！」

「ええ、腐れニートからやつと一般人に昇格いたしました」

「ちよつ！ 腐れニートって！！」

「おや？ 家で働きもせずになにやにやと同人誌を読む者を、腐れニートと形容せずになんと形容しろと？ ああ、腐れオタとかヒツキーとかもありましたね。どれが宜しいですかな？」

「……腐れニートも腐れオタもヒツキーもお断りよ。というかなんでヒツキーなんて言葉知ってるのよ」

「何故と言われれば執事だから、としかお答えできませんね」

「……答えになってないわよ」

「それで、なんのバイトなのでしょうっか？」

「ああ、パン屋よ。ほら、いつもパンの耳を貰ってる」

「おお、あそこですか。あそこでのバイトなら売れ残りを」

「ええ、既に交渉済みよ。と言うか店主から持てっいいと言われたわ」

「まあ、あれだけ頻繁に耳を貰いに行けば言われますよね」

「頻繁ってどんぐらい行ってたのよ？ 私は週に数回しか行ってないわよ？」

「えええつと、私は軽く見積もっても一日三回は行ってましたね」

「どんだけよ……。恥ずかしくて行く気失せたわ……」

改めまして

「お嬢様、バイトどうでしたか？」

「あなたのお陰でとっても恥ずかしかったわ！」

「おや、何故ですか？」

「一日に何回も来られりや恥ずかしいっての！！ しかもパンの耳を貰いに！！！」

「今日は二回しか行かなかったはずですが……」

「二回でも十分だわ！ あなた、バイトしてるんでしょ！？」

「それは、何故バイトしながら二回もパン屋に行く暇があるのか、ということでしょうか？」

「そうよー！」

「それはバイト先からバイト先に移動する途中に寄ったからです」

「ええ……あなた、何個も掛け持ちしてるの？ それも一日の内に何個も？」

「ええ、この不景気ですからどこにもすぐクビになるので、短気も含めできるだけ多くをと思ひまして」

「そ、そうだったんだ……。あの、そのゴメンなさい」

「どうしたのですか？ いきなり」

「その今まで執事の苦勞も知らずに、バイトがあんなに大変だと知らずに執事だけにやらせて、それも何個も……」

「お嬢様、私はお嬢様の為に働くのであれば苦ではないのでうよ」

「そう、なの？」

「ええ、ですからそんな悲しいお顔を為さらないでください」

「ええ、わかったわ。改めてこれからもよろしくね、執事」

「ええ、これからも宜しくお願ひします、お嬢様」

サ・タ・ン

「ねえ、執事」

「なんででしょうか？」

「今ふと思ったのよ、私」

「なんででしょうか？」

「うん、サンタとサタンって紛らわしくない？」

「はい？」

「つまりね、いきなりサ・ン・タの文字を並べられたらサンタかサタンか一瞬で判断できないってこと」

「はあ、そうかもしれませんね」

「でしょ！ 私思うのよ、サンタとサタンって兄弟じゃない？」

「それはまた突発的な考えですね」

「まあね！」

「流石お嬢様です、一般人ではとても考えられないような方向に物事をお考えになれる。これは一種の才能ではないでしょうか」

「………ねえ執事」

「なんでしょか？」

「あんにそういわれると、バカにされてる気がするのは気のせい？」

「いえいえ、そんなことはありません」

「そう、ならいいけど」

「バカをバカにしたところで理解されないのでバカにする意味はありませんからね」

「ははは、そうね」

「ええ、それでも言うのはストレス発散ですね、私の場合」

「……………つまり、私でストレス発散してると」

「……………」

「そうなのね!!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0238w/>

麗しき日常（笑）

2011年10月7日08時26分発行